

5 学生の行動量、志向の変化

学生の活動プロセスごとの行動量や、志向は？

Webでの活動の 実施率・量が増加

2021年卒学生の就職活動について、活動プロセスごとの実施状況を20年卒と比較した(表①)。各プロセスの実施率は、「OB・OGなど社会人の先輩を訪問する」「大学で開催される合同説明会・セミナーに参加する」の2項目と前年未聴取の2項目を除き増加または横ばいとなった。

個別のプロセスを見ると、「個別企業・各種団体等の説明会・セミナー」のうち、「対面(社内、会場など)で開催されるものに参加する」の参加社数は平均7.80社と、前年(平均11.25社)から3.45社減少。一方で、「Web上で開催されるもの」に参

加する」の参加社数は平均10.06社で、前年(4.60社)から5.46社増加した。

また、「プレントリー(採用情報・資料の請求、企業への個人情報提供)をする」の実施社数は平均27.54社。近年減少傾向であったが、前年(平均24.79社)から2.75社増加した。「適性検査・筆記試験を受ける」の実施社数も、平均9.83社と、前年(平均8.36社)から1.47社増加した。全体の傾向として、対面の活動の参加社数が減少、書類提出や適性検査・筆記試験受検の参加社数が増加、Webでの活動の参加社数が増加と、オンライン形式の活動を中心に行動量が増え、コロナ禍で先行きが不透明な中でも学生が懸命に活動した様子がかえる。

かえる。

活動にかかった金額の 平均は8万8923円

次に、就職活動にかかった金額について見てみる。就職志望の大学生のうち、就職活動全体にかかった金額の平均は8万8923円(P17・表②)。20年卒(12万8890円)から約4万円減少した。地域別に見ると、全ての地域で減少している。最も減少幅が大きかったのは「九州」で、20年卒の15万6989円から約6.5万円減の9万2717円だった。次に減少幅が大きかったのは、「中部」で約4.9万円、「北海道・東北」も約4.6万円の減少だった。

学生

Web上での就職活動プロセスや、プレントリー、適性検査・筆記試験の実施量が増加

① 就職活動プロセスごとの実施状況

※実施率：学生全体／それぞれ単一回答、平均数の対象：各プロセスを実施した学生／実数回答
※()内の数値は2020年卒との差(ポイント)

	実施率 (%)		平均数 (実施者ベース)		
	2021年卒 / 2020年卒	n=2111 / n=1904	①2021年卒	②2020年卒	①-②
就職に関する情報を収集する		86.8 (3.6)			
OB・OGなど社会人の先輩を訪問する		17.1 (-2.9)	n=362 2.74 社 4.12 人	n=381 3.06 社 4.41 人	-0.32 社 -0.29 人
リクレーターと接触する		21.0 (-)	n=444 3.08 社 4.76 人	n=400 3.38 社 5.11 人	-0.30 社 -0.35 人
プレントリー(採用情報・資料の請求、企業への個人情報提供)をする		45.3 (3.5)	n=956 27.54 社	n=797 24.79 社	2.75 社
大学で開催される合同説明会・セミナーに参加する		37.2 (-3.4)	n=785 3.12 回	n=773 3.48 回	-0.36 回
大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加する		41.2 (2.3)	n=870 4.00 回	n=741 4.46 回	-0.46 回
個別企業・各種団体等の説明会・セミナー	対面(社内、会場など)で開催されるものに参加する	34.7 (0.2)	n=732 7.80 社	n=658 11.25 社	-3.45 社
	Web上で開催されるものに参加する	29.6 (10.7)	n=624 10.06 社	n=360 4.60 社	5.46 社
エントリーシートなどの書類を提出する		61.9 (7.2)	n=1306 14.75 社	n=1042 12.36 社	2.39 社
選考のための動画を提出する ※1		21.9	n=463 2.82 社		
適性検査・筆記試験を受ける		58.5 (8.1)	n=1235 9.83 社	n=960 8.36 社	1.47 社
面接選考	対面での面接選考を受ける ※2	57.1 (2.3)	n=1206 4.84 社	n=1044 7.84 社	-3.00 社
	Web上での面接選考を受ける ※1	50.9	n=1075 7.23 社		
内々定・内定を取得する		86.3 (0.9)	n=1821 2.17 社	n=1626 2.35 社	-0.18 社

ここ数年、活動量は減少傾向にあったが、「プレントリーをする」「エントリーシートなどの書類を提出する」、説明会・セミナーのうち「Webで開催されるものに参加する」「適性検査・筆記試験を受ける」の平均参加社数が増加した。

※1：2021年卒調査より聴取 ※2：2020年卒調査では「面接など対面での選考を受ける」



就職活動費用の内訳を見ると、平均使用額が最も高かったのは、「公務員試験対策費」で9万3204円(使用率11.0%)。次に、「被服費」3万4360円(使用率88.7%)、「交通費」2万5567円(使用率89.4%)、「宿泊費」2万2467円(使用率14.3%)が続いた。どの項目も20年卒に比べると使用額が減少しているが、とりわけ、交通費は約2.4万円減少と、減少幅が大きかった。コロナ禍で就職活動のWeb化が進み、移動の機会が減少したことによると思われる。

キャンパス所在地域内での就職が増加

次に、学生が就職した「地域」について

て見てみる。大学キャンパスの所在地別に、その地域内に就職したか、地域外に就職したかを聞いたところ(グラフ⑤)、「首都圏※」のキャンパスに籍を置く学生の90.2%、「首都圏以外」のキャンパスに籍を置く学生の65.3%が、その地域内で就職していた。

ここ3カ年の変化を見ると、「首都圏」「首都圏以外」のどちらも、キャンパス所在地の地域内で就職する学生の割合の上昇傾向が見られる(首都圏:19年卒86.9%→21年卒90.2%、首都圏以外:19年卒59.2%→21年卒65.3%)。このような選択が増加している一方で、首都圏のキャンパスに籍を置く学生は、U・ターンではなく首都圏に残る選択をする

傾向にあることがうかがえる。

なお、首都圏出身の学生に対して、地方で働くことについての認識を聞いたところ、就職活動開始後の認識として、「働きたい」「どちらかという働きたい」を合わせた「働きたい計」は29.2%、「働きたくない」「どちらかという働きたくない」を合わせた「働きたくない計」は43.1%、「どちらともいえない」は27.7%という結果となった。「働きたい計」についてここ3カ年の推移を見ると、19年卒は26.3%、20年卒は29.3%で、19年卒から21年卒で2.9ポイント増加しており、また、「働きたくない計」も19年卒から21年卒で2.6ポイント減少していることから、地方で働く意向は増加傾向が見られる。

※東京、神奈川、千葉、埼玉の一部三県

学生

20年卒に比べて全ての項目でかかった費用が減少

② 就職活動にかかった平均金額

※平均金額の集計対象:各項目で「1円」以上を使用した大学生/実数回答
※使用率:「1円」以上を使用した大学生/それぞれ単一回答
※項目ごとの平均額のため、各項目の合計は「活動全体」の金額とは一致しない
※()内の数値は、平均金額の差(2021年卒-2020年卒)
(円)

	全体	交通費	被服費	宿泊費	飲食費	書籍費	公務員試験対策費	スキルアップ費用
平均金額(対前年差)	88,923 (-39,967)	25,567 (-23,900)	34,360 (-2,509)	22,467 (-4,592)	6,957 (-5,531)	4,913 (-784)	93,204 (-11,991)	17,398 (-6,449)
使用率		89.4%	88.7%	14.3%	66.4%	60.7%	11.0%	28.6%

活動全体にかかった費用も、内訳の各項目も、全て前年に比べて減少した。特に、交通費は、前年から約2万4000円減と、減少幅が大きかった。

(2021年卒 就職プロセス調査 6月12日時点調査)



Web説明会では、社員同士のやりとりに注目しました

●菓子メーカー内定・栄養学部

40社近くのWeb説明会を視聴しましたが、調べればわかることを説明する企業が多かったのが不満でした。社員インタビューで具体的な仕事内容やその人が目指していることを知れたり、社員同士の掛け合いから社風を垣間見られると、自分に合うかどうかを判断しやすかったです。4社から内定を得ましたが、学んできたことを活かそうと、面接担当者同士のやりとりから自分に合っていそうと感じた企業に決めました。

学生

19年卒と比べ、首都圏の学生の地域内就職は3.3ポイント増、首都圏以外の学生の地域内就職は6.1ポイント増

③ 大学キャンパス所在地別就職先所在地の経年変化

※就職先確定者/単一回答

		0		20		40		60		80		100(%)	
		地域内就職者	地域外就職者										
2021年卒	首都圏									90.2			9.8
	首都圏以外									65.3			34.7
2020年卒	首都圏									88.0			12.0
	首都圏以外									62.2			37.8
2019年卒	首都圏									86.9			13.1
	首都圏以外									59.2			40.8

ここ3カ年でみると、首都圏のキャンパスに在籍し地域内で就職した学生の割合と、首都圏以外のキャンパスに在籍しその地域内で就職した学生の割合のいずれも微増している。

(大学生の就職状況調査 2021年卒)

自社の実態を率直に話してくれたことで信頼度UP

●飲食業界内定・商学部

オンライン面接で自分をうまく伝えきれなくてなかなか選考が進まず、6月に新たに検索して出会い、対面面接を重ねて内定を得たのが内定先です。社員の過重な負担や過去の不祥事への懸念を質問した際、具体的な改善策を挙げながら「全くないとは言えないが確実に良くなっている」と取りかわりに話してくださったことや、同様の意見を現場の複数の社員からも聞いたことで、信頼できる会社だと感じて入社を決めました。